

古巣

下原 野田サンダース

下原

野田サンダース



今季から社会人野球クラブチーム・野田サンダースでプレーする下原慎太郎(24)前バイタルネットが古巣との対戦を心待ちにしている。バイタル時代は外野手登録だったが、新天地では捕手へコンバートされ真剣勝負を挑む。野田にはベテラン・染井典明(36)に加え池田陽介(26)の内野手の元バイタル組の加入も決まっており、充実した戦力で王者を脅かす存在になる。

表情明るい下原捕手は、バイタル時代からキャッチボールを繰り返している。

「プロテクター、レガースを身につけたキャッチャースタイルが板についている。投手陣のボールを受ける際にはミットから心地いい音を響かせた。それもそのはず。下原の「本職」は捕手だ。中学(シニア)時代は全国大会2度の優勝経験を持ち、日本代表メンバーに選出されたこともある。東海大相模では同期に昨年のドラフトで巨人から4位指名を受けた市川友也捕手(26)がいたため、外野手に転向。大学(横浜商大)、バイタルと捕手から選抜されてきたが、昔取った餅ねづかいは決して衰えてはいない。(野田)やっほいと言われたところをやる。体もまたできのいい雰囲気だ。野田側にとっても捕手は補強ポイントの一つ。下原の捕手起用は、その解消にもつながる。

実はバイタル野球部を卒業後、野球はきっぱりやめるつもりでいた。ところが「野球もそうだけど人間的にもあんな人に近づきたい」。尊敬してやまない染井の野

対戦を心待ち

外野手→「本職」復帰「一泡吹かせたい」

「下原 慎太郎(しんたろう) 1985年(昭和60)4月4日、生まれの24歳。神奈川県出身。小1から野球を始め、リトル、シニアと硬式一筋。東海大相模時代は外野手。3年夏は神奈川県大会準決勝で成瀬(現ロケット)擁する横浜に敗れた。横浜商大を経て08年からバイタルネットでプレー。右投げ左打ち。187cm、67kg。血液型A。家族は新婚の瑞穂夫人(24)。

【癖も分かる】

今は積極的に野田の練習に参加し、投手陣の特長をつかもうと懸命だ。「いいボールを投げる。ミット越しの手入れも話した。捕手・下原がターゲットにするのはやはり古巣。「去年はバッテリーキャッチャーもやった。各打者の苦手なコースや癖なんかも分かっています。一泡吹かせたいですね」。巧みなリードでバイタル打者陣を苦しめるつもりだ。

県内チーム相手には負けが許されないバイタル時代とは違い、「今度こそは挑戦者。勝たなきゃいけない」というプレッシャーはないです。新しい環境を得た下原が古巣へ真向勝負を挑む。

(矢崎 弘)

日本... 新週... 手たち... きのなが... 手たち... 自... 木田... は、新... 木田... 尽力す... 快諾... ポール... 至るま... けに... 基本... 自ら手... 導した... メン...